



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

特別支援教育コーディネーター研修会 令和7年7月23日（水）実施

講師：高知市こども未来部 こども支援担当参事
健康福祉部 健康推進担当参事 阿部 孝典 先生



研修Ⅰ「学校に行けない」には理由がある 一子どものSOSにどう答えるかー

登校したくない、できないと表現できない場合もある

登校への苦痛を表現できない、意思表示や助けを求めることが苦手な場合は、ある日突然限界を超え、不登校になる場合がある。元気に通っているから安心というわけではなく、子ども一人一人の特性について疾患や障害の有無を十分考慮した上で、個別に対応していくことが不登校の予防につながる。

発達障害の子どもの場合

障害特性とネガティブな環境要因が絡み合うことで、下のような二次的な心因の問題が生じることもある。

- ・ 自信喪失
 - ・ 対人関係における被害念慮
 - ・ 不適切な行動パターン
- そのうちの一つが不登校

発達障害への対応

- ① **まず理解する。**
周囲の理解や認識がないと、子どもの人生の扉は開かれない。
- ② **到達可能な課題を設定する。**
小さい目標を立て、努力できるようにする。
- ③ **結果に対する肯定的な評価をする。**
褒めて、伸ばす。

- ・ 減点法で見ずに、ありのままの姿を見取る。
- ・ ショートスパンではなく、長い目で見る。
- ・ 決して他の子と比べずに、今できていることに目を向ける。
- ・ 昨日までできなかったことが、今日できるようになれば、褒める。

教師として大切にしたい視点

その子どもの人生は一本の線であって見ないで見るべき

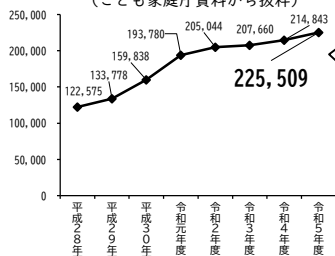
医師は、受診時の「点」でしか子どもたちを見ることができないが、教師は、子どもたちと毎日接するため「線」として見ることができる。毎日見ることは大きなメリットになるが、不適切な接し方をすれば、接する時間が長い分、デメリットも大きくなるので注意が必要である。

社会に出て一人立ちするのが最終目標

問題を先送りするより、分かった時点でそれを改善していく必要がある。

研修Ⅱ 学校現場で気づく児童虐待 一声にならない声を聴くー

令和5年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数
(こども家庭庁資料から抜粋)



児童虐待の相談対応件数は年々増加傾向にある。

児童虐待防止法上、学校は虐待の疑いがあれば、通告することが義務付けられている。校内で協議し、組織としてためらうことなく通告を行うことを学校のスタンスとして常にもち続ける体制が望まれる。



虐待の早期発見のために、教員が最後の砦という自覚をもつことが大切だよ。

養育支援や教育に関わる者の心構え

- ・ 対応を面倒がらないようにする。
- ・ 「人に迷惑をかけていないから対応しなくてよい」と思うのではなく、その子どもの本来の能力が発揮できるようにしていく。
- ・ 些細なことでも聞き取ることを大切にする。
- ・ 虐待を通告する際の責任とリスクを分散させ、担任一人で抱え込まない。
- ・ 虐待に関しては、違和感に気付くことができる感性とそれを行動に移せる勇気が必要である。
- ・ 虐待（疑いを含む）に対しては、子ども第一で考え、速やかに対応する。

相談・通告先

- ・ 児童相談所 全国共通ダイヤル189（いちばやく）
- ・ 高知市子ども家庭支援センター（高知市役所本庁内）
- ・ 高知県中央児童相談所 ・ 警察

【受講者の感想】

- ・ 子どもの実態に応じて、物理的・人的環境調整を行い、学校内はもちろん、保護者とも連携を密にして、児童一人一人に適切な支援が行えるようにしていきたい。
- ・ 子どもを守るためにも、子どもたちの出すSOSや変化を見逃すことなく、アンテナを張って関わっていききたい。また、目の前の事象だけに目を向けるのではなく、子どもたちの家庭環境や特性、しんどさに目を向け、慎重に対応していきたいと思った。

学びを加速させるICT活用と情報教育の全校的な展開のために

講師：桐蔭学園中等教育学校 情報科教諭 郡司 直孝 氏



テクノロジーを使って、物事がよりよく加速するなら、その人（集団）が使いたい（やすい）ように使うと良い

ICTと紙の使い分けをどうする？ ～デジタルか？アナログか？～

ICTを使うことのよさ

共有しやすい

例) 地理的に離れた場所にいる専門家に閲覧・コメントしてもらう。

加工しやすい

例) Googleドキュメントを使って、書く活動を行う。
※ 試行錯誤や推敲が容易であり
教員らのコメントも可能

転用しやすい

例) 国や地方公共団体が公開している情報を収集し、自分たちの課題を解決するために活用する。

見える化しやすい

例) GeoGebra（ジオジェブラ）等を用いて、端末で図形操作を行い理解を促す。

アナログを使う方が望ましいなら アナログを大切にしたい

- ・ いじめ調査は、子どもの迷いも見逃したくないため、紙で実施する。（ICTでは子どもの迷いが見えにくい）
- ・ ポスターセッションで、スライドはデジタルで作るが、全体を把握したいため、スライドを印刷して模造紙に貼り付けるようにする。等

子どもが、デジタルを使うか、アナログを使うかを判断するときの基準にもなるね。



児童生徒の生成AI活用をどうする？

「よきパートナー」として活用する

- 鵜呑みにしない・出力結果を考える
- 活用して良い場面かを考える
- 使用することで力が付くかを考える
- 利用のルールを確認する
- 「指示（プロンプト）」を工夫する
- 人を傷つけない・権利を侵害しない

生成AIの利活用に関するガイドライン（文部科学省）も確認しよう。



生成AIの活用は段階的に

- Step. 1 「生成AIはどのように『生成』しているか？」を理解する。
- Step. 2 負の側面が小さい環境で活用する。
- ・ カスタム指示で「答えを出さない」ように設定する。
 - ・ 教師の管理下で使用する。
- Step. 3 生成AIプラットフォームを活用する。

教員間の差の解消をどうする？

「これまでの実践」を起点にした校内研修

これまでの実践の中の「こんなことができたらいいな」

ICTで解決できることはないか
実践を交流し、模索・検討する

「やらざるを得ない」状況をつくる

- カリキュラムに位置付ける（例：道徳科、総合的な学習の時間）
- カリキュラム外へ位置付ける（例：朝の会、健康調べ）
- 校務で活用する（例：学級日誌の電子化）

これからの時代に情報活用能力は必要不可欠だから、研修を充実させていくことが大切だね。



情報活用能力のカリキュラム
マネジメントを各学校で行う

【受講者の感想】

- ・ 「学びが加速するのか」という視点でICT活用の有無や方法を考えることが大切だと感じました。タブレットを用いることで学びが非効率になってしまおうと感じることもあったため、もう一度活用方法を見直したいと思いました。
- ・ これから生きていく子どもたちにICT活用能力は必ず必要だということを念頭におき、多様なツールを活用させる機会を設けることが必要だと思いました。また、講演を聞いて様々な授業実践の具体例を学ぶことができたので、情報担当として他の教科の担当に伝えていこうと思いました。